

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

学校名	慶應義塾大学
設置者名	慶應義塾

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省 令 で 定 め る 基 準 単 位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	人文社会学科	夜・通信			36	36	13	
		夜・ 通信	11		4	15	13	
経済学部	経済学科	夜・通信			26	26	13	
		夜・ 通信	11		2	13	13	
法学部	法律学科	夜・通信			38	38	13	
	政治学科	夜・通信			38	38	13	
		夜・ 通信	11		4	15	13	
商学部	商学科	夜・通信			36	36	13	
医学部	医学科	夜・通信			32	32	19	
理工学部	機械工学科	夜・通信			55	55	13	
	電子工学科	夜・通信			55	55	13	
	応用化学科	夜・通信			55	55	13	
	物理情報工学科	夜・通信			55	55	13	
	管理工学科	夜・通信			55	55	13	
	数理科学科	夜・通信			55	55	13	
	物理学科	夜・通信			55	55	13	
	化学科	夜・通信			55	55	13	
	システムデザイン 工学科	夜・通信			55	55	13	
	情報工学科	夜・通信			55	55	13	
	生命情報学科	夜・通信			55	55	13	
総合政策学部	総合政策学科	夜・通信			24	24	13	
環境情報学部	環境情報学科	夜・通信			24	24	13	
看護医療学部	看護学科	夜・通信			56	56	13	
薬学部	薬学科	夜・通信			41	41	19	
	薬科学科	夜・通信			25	25	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

通学課程：

- ・慶應義塾 Web サイト「在学生」→「塾生向けサイト」→「履修案内・講義要項・時間割」ページから、pdf の「実務経験のある教員等による授業科目一覧表」にリンクを張り公表している。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/rishu/index.html>

通信教育課程：

- ・『ニューズレター慶應通信』（7月下旬刊行）、補助教材として学生全員に送付
- ・学生用ポータルサイト（kcc-channel）で公表している（7月中旬に公表予定）。
<https://kcc-channel.keio.ac.jp:10443/up/faces/login/Com00501A.jsp> より ID とパスワードでログインし閲覧する。
- ・慶應義塾通信教育課程 Web サイト「学部について」→「講義要項（シラバス）」→「2019 夏期スクーリング」に実務経験のある教員等による授業情報を公表している（7月中旬に公表予定）。

<https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/syllabus.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

学校名	慶應義塾大学
設置者名	慶應義塾

1. 理事（役員）名簿の公表方法

慶應義塾webサイト「理事・監事一覧」で公表
<https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/organization/leadership-2.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社社長	2018.11.1～ 2022.10.31	学務重要事項、資産 の取得・処分、事業 計画、決算等のチェ ックおよび決裁
非常勤	株式会社名誉顧問	2018.11.1～ 2022.10.31	学務重要事項、資産 の取得・処分、事業計 画、決算等のチェッ クおよび決裁
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	慶應義塾大学
設置者名	慶應義塾

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>通学課程：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 例年10月頃に次年度の授業担当者が決定するので、11月にシラバスの作成を依頼。翌年1月から3月にかけて編集し、授業科目の内容・目的・方法・授業計画ならびに成績評価方法などについて『講義要綱・シラバス』として3月中旬を目途に公表している。 ・ 閲覧方法 <ul style="list-style-type: none"> ① 在学生は Web の塾生サイトで ID とパスワードでログインし閲覧する。「塾生の皆様へ」→「履修案内・講義要綱・時間割」 http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/rishu/index.html ② 一般向けには、表示項目の一部を除き公表している。 https://gslbs.adst.keio.ac.jp/ <p>通信教育課程：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 例年11月に次年度の授業担当者が決定するので、12月にシラバスの作成を依頼。翌年1月から3月にかけて編集し、『スクーリング案内／講義要綱』、『テキスト科目履修要領』として4月に公表している。 ・ 閲覧方法 <ul style="list-style-type: none"> ① 学生用ポータルサイト (kcc-channel、https://kcc-channel.keio.ac.jp:10443/up/faces/login/Com00501A.jsp) IDとパスワードでログインし閲覧する。 ② 希望者には製本印刷したものを配布している。 ③ ホームページで外部の方にも公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/syllabus.html 	
授業計画書の公表方法	上記のとおり

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

通学課程：

- ・ 授業科目の評価は試験やレポートの提出を課し、成績は、S・A・B・C・Dの5段階評価を持って示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した科目には所定の単位を与えている。また、学位認定については、履修科目で得た単位数に卒業論文の審査などにより取得した単位を加え、各学部学則に定める卒業必要単位数の充足をもって、各学部教授会が認定している。

通信教育課程：

- ・ 通信授業（テキスト）
学生は各科目をテキストで履修し、レポートを提出した学生は指定の時期に科目試験を受験する。科目試験の成績は、S・A・B・C・Dの評価を持って示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した科目には所定の単位を与える。
- ・ 面接授業（スクーリング）
学生は履修申告した面接授業に出席し、履修した科目については指定の時期にスクーリング試験を受験する。スクーリングして件の成績は、S・A・B・C・Dの評価を持って示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した科目には所定の単位を与える。
- ・ 卒業試験
卒業試験は卒業論文と総合面接試問によるものとする。学生は必要な単位を修得した上で、卒業論文を指導教授に提出し、指導教授の審査を受ける。教授から許可された学生は、指定の日時に主査・副査による総合面接試問を受ける。諮問の結果を教授会に諮る。S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した卒業論文には所定の単位を与える。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

通学課程：

- ・2017年度からGPA制度を導入し、5段階評価の評語とその基準点数およびGPAの算出方法、対象となる科目および併せて導入した履修登録取消制度を、学生向けのWebサイトに掲載している。

「塾生の皆様へ」→「履修案内・講義要綱・時間割」→「〇〇キャンパス」→「履修案内」

http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shoumei/grading_system.html

- ・GPA算出式

Grade Point S:4.0, A:3.0, B:2.0, C:1.0, D:0.0

$$\frac{(\text{Grade Points} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{\text{総履修単位数}}$$

通信教育課程：

2017年度からGPA制度を導入し、5段階評価のグレード別のポイント、GPAの算出方法、対象となる科目および併せて導入した履修登録取消制度を、全学生に配布する『塾生ガイド』に掲載している。

- ・GPA算出式

Grade Point S:4.0, A:3.0, B:2.0, C:1.0, D:0.0

$$\frac{(\text{Grade Points} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{\text{総履修単位数}}$$

- ・適用される学生

入学年度が2017年度以降の正科生。

- ・対象科目

通信授業（レポート合格かつ2017年度以降に科目試験を受験した科目）

面接授業（体育スクーリング、実験スクーリング含む）

メディア授業

卒業論文（卒業論文審査、総合面接試問の結果）

- ・履修取消制度

面接授業を定められた履修登録取消期間に手続をした場合、取消した科目はGPAの対象とはならない。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

通学課程：

- ・慶應義塾Webサイト「在学生」→「塾生向けサイト」→「学業成績表」ページに公表している。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/seiseki/index.html>

通信教育課程：

『塾生ガイド』に掲載している。

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>通学課程： <ul style="list-style-type: none"> 卒業の認定方針は、学部毎に学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）を定め、Web サイトならびに学生に配布している学部学則にて公表している。卒業要件（履修科目や単位数など）は、学生に配布している履修案内（Web サイトで PDF でも公表）と学部学則で学生に公表している。 </p> <p>通信教育課程： 各学部のディプロマポリシーは以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> 卒業の認定方針は学部毎に学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）を定め、Web サイトならびに学生に配布している「塾生ガイド」にて公表している。卒業要件（履修科目や卒業単位数など）も「塾生ガイド」にて学生に公表している。 </p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>通学課程： 慶應義塾Webサイト「慶應義塾について」→「情報公開」→「3つの方針（学位授与・教育課程・入学者受入）」で公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/</p> <p>通信教育課程： 全学生に配布している補助教材『塾生ガイド』に明記。進学希望者にも分かるようにホームページでも公表している。</p> <p>文： https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html</p> <p>経済： https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html</p> <p>法： https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

学校名	慶應義塾大学
設置者名	慶應義塾

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	慶應義塾web「情報公開」ページ「財務状況」にて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	慶應義塾web「情報公開」ページ「事業報告書」にて公表している。
事業報告書	
監事による監査報告(書)	https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 慶應義塾web「情報公開」ページ「大学点検・評価」にて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要
(通学課程)

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf)
(概要) 本塾建学の精神に則り、哲学、史学、文学、図書館・情報学、人間関係学にかかわる理論と応用を研究教授し、文化の創造と社会の発展に資する幅広い教養と深い学識および知的・倫理的・実践的能力を培うことを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)
(概要) 文学部（人文社会学科）は、本塾建学の精神に則り、哲学、史学、文学、図書館・情報学、人間関係学にかかわる理論と応用を研究教授し、文化の創造と社会の発展に資する幅広い教養と深い学識および知的・倫理的・実践的能力を有した人物を育成する。すなわち「文（ことば）」にかかわる広大な領域を対象として、創立者福澤諭吉の「実学の精神」に基づき、実証的に真理を解明し問題を解決してゆく科学的な姿勢と知識および能力を培うことをめざす。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)
(概要) 文学部（人文社会学科）は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実施するために、総合教育科目、必修語学科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を編成する。 文学部の研究教育の対象は、人文学、社会科学に限定されるものではなく、自然科学や学際的な分野も包含する幅広さと多様性を特徴とする。したがって文学部の教育課程も多様な科目や分野によって編成される。特に総合教育科目、必修語学科目においては、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能、着実な言語運用能力の形成をめざした科目編成や授業運営を実施する。また専門教育科目においては、所属する各専攻にかかわる基礎的な知識を基盤として、次第に高度な専門的学識や技能を習得することができるような体系的な教育課程を編成・実施する。さらに専攻外の専門教育科目等の履修も可能とし、学生が自ら定めた研究・学習課題をさまざまな授業科目や学習機会によって達成できるような教育課程を編成・実施する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)
(概要) 文学部では次のような資質・能力を有する学生を求めている。 ・慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心 ・先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語・中国語） ・与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十

<p>分に記述する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史） <p>これらは、文学部が設置しているすべての専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）に共通しており、入学後、それぞれの専攻における独自のカリキュラムに従って、専門的な知識や能力を身につけてゆく。したがって、文学部に入学する者は、これらの専攻が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有することもまた必要である。</p> <p>以上の方針に基づき、一般入試を実施する。さらに、この方針に沿いつつ、より多様な人材を入学させるための自主応募制による推薦入試（自己推薦入試）や、帰国生入試や留学生入試を行う。</p> <p>具体的には、一般入試は、外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。自主応募制による推薦入試は、高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な考査によって選抜する。そのほか、帰国生入試と留学生入試では、学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。</p>
--

学部等名 経済学部
<p>教育研究上の目的</p> <p>（公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf）</p> <p>（概要）</p> <p>経済学部の教育目的は、慶應義塾の建学の精神を踏まえつつ、各界で指導的役割を担う次世代の人材を養成することである。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>（公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html）</p> <p>（概要）</p> <p>一般教養、語学ならびに経済学全般に関する広い知識・理解力と経済学の特定専門分野に関する深い考察力を兼ね備えた者に学位を授与する。経済学を一つの軸とする教養を備え、変化する社会を適切に認識し、日本社会をリードすると同時に世界で活躍できる能力を証するものとして学位を授与することを方針としている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>（公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html）</p> <p>（概要）</p> <p>総合教育科目、外国語科目、経済学に関する基礎教育科目・専門教育科目などを、バランス良く各学年に配置し、学年制を取る。4年間で126単位以上の取得を課す。また、一、二年時の自由研究セミナー、教養系を中心としたセミナー（研究プロジェクト）、経済学専門のセミナー、英語による経済学履修コース（Professional Career Program）など少人数教育の充実につとめている。さらに、大学全体の国際交換協定とは別に、学部独自の交換協定を締結し、在学中における海外大学での単位取得を奨励している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>（公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html）</p>

<p>(概要)</p> <p>社会に積極的に関与する強い意志を持ち、自らの智力によって変化する社会を把握しようという気概をもった人間を求めています。また、学問的基礎に基づいて厳密に考える能力にすぐれると同時に、バランス感覚に富み、多様なものの見方を尊重できる人材の育成を目指しています。このような知性により社会の指導的役割を担える潜在力を備えた多彩な学生を受け入れたい。</p>

学部等名 法学部

<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf)</p>
--

<p>(概要)</p> <p>法学部は、本塾建学の精神に則り、国際的な視野に立ちつつ新しい社会を創造し未来を先導する人材を育成すべく、法学および政治学の専門分野のみならず幅広い教養について教授研究することを目的とする。</p>

<p>法律学科</p> <p>法学部法律学科は、社会現象を法的な視点から捉え、柔軟かつ的確な判断のできる法的思考力を有する人材の育成を目的とする。</p>

<p>政治学科</p> <p>法学部政治学科は、現代社会および歴史上の諸問題を政治学的な視点からの的確に分析し、創造的かつ総合的に判断する能力を有する人材の育成を目的とする。</p>

<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>法学部では所定の年限在学し、学則第80条に定める外国語科目単位、第81条に定める人文科学、自然科学、数学・統計・情報処理および社会科学科目の所定の単位を修得し、かつ第82条の定める法律学科法律学科目ないしは政治学科政治学科目のなかから所定の単位を修得した者に、学士の学位を与える。情報処理系列、体育科目および自主選択科目についてはこれを卒業単位に含めることを認めますが、自由科目は含まれない。</p> <p>個々の科目の単位認定にあたっては、厳格な成績評価を行い、各々の科目に関する基礎的知識や技法が着実に修得されているか否かに留意する。</p>
--

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>法学部は、法律学科、政治学科の2学科からなり、学生はそれぞれ所属する学科の法律学科目、政治学科目を履修する。法律学科では法律家を育てるだけでなく、社会現象を法的にとらえる能力つまり、リーガルマインドを育てることが目標である。政治学科においては、政治家や公務員を育てることにとどまらず、個別の行為や現象を全体との関連で適切に位置づける能力、つまり組織の指導者に要求されるゼネラリストとしての資質の涵養を目標としている。しかし法学部では法律学と政治学の他に、三つ目の柱として両学科に共通する教養教育の科目も学ぶ。この三本の柱が有機的に統合されることで全体としての法学部を構成している。</p> <p>現代の日本社会が求める人物像は専門的知識を修得しながら、創造的な思考能力や個性を持ち、そして総合的な政策能力を有している人である。つまり、ゼネラリスト</p>
--

<p>であっても高い専門的素養のある人、あるいはスペシャリストでありながら、総合的知識を持つ人が求められている。法学部のカリキュラムも、そうした人材の養成を目指し、以下の点を念頭において組まれている。第一に、法律学や政治学以外の第2の専門を持つ個性派学生を育てる。それは、法律学や政治学の専門的な知識を持った上で他の特定の分野についても深い知識を持つことであり、例えば、「法律学と外国語に強い社会人になる」「政治学と社会科学を究めて公務員やマスコミ、政界・財界のリーダーを目指す」また、「法律学と人文科学を身につけ、教養人となる」などが挙げられる。このように、自分の関心や将来の夢に合わせて、法学部では個々の学生が自分の関心や進路希望にそって自由に様々な科目を学ぶことが可能。具体的には法学部には副専攻制度の一環として、3・4年生用に「人文科学研究会」「自然科学研究会」が設置されている。これは主専攻と並行して人文科学や自然科学の領域を自主的に学び、総合的な視野を獲得するためプログラムである。第二に、外国語に強い国際派学生を養成する。外国語科目はレベル別、目的別クラス編成とし、第3外国語までインテンシブコース（集中授業）で学ぶことができる。そして第三に、知的訓練を受け、より研究や思考の能力の高い学生を育てる。統計情報処理にもインテンシブコースを設置し、数理・統計的研究での高度な利用を短期間に速習できるようにしている。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 （公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html）</p>
<p>（概要） 法学部では慶應義塾の建学の精神を理解し、国際的な視野に立ちつつ、新しい社会を創造し先導する気概を持つ人材を求めている。この使命の実現のため、知的好奇心・個性あふれる学生を選考する入試制度、すなわち一般入試、帰国生入試、留学生入試、指定高校長推薦入試、そして自己推薦形式でのFIT入試といった多様な入試制度を設けている。なお、FIT入試では地域ブロック枠を設定した方式も行っている。</p>

<p>学部等名 商学部</p>
<p>教育研究上の目的 （公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf）</p>
<p>（概要） 商学部は、福澤諭吉の実学の精神を「商学」の分野において継承し、社会の変化に対応する形で発展させていくことを教育と研究の基本とする。教育においては、この基本を踏まえ、現実社会の抱える問題を自ら発見し、科学的思考と商学の専門知識を用いて解決案を提示し、実行する能力を養うことで、未来社会に貢献する人材を育てることを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 （公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html）</p>
<p>（概要） 学則で定める卒業に必要な単位数を取得することが学士号授与の要件となる。また、卒業までに、経済や社会の現象についての実証的な観察・分析を通じて現代の社会が抱える問題を自らの力で発見し、解決案を提示し、実行するための能力、および高い倫理観と責任感を兼ね備え、社会の発展に貢献するリーダーとしての資質を身につけることが重視される。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html）</p>

<p>(概要)</p> <p>4年間の教育課程を通じ、現実社会における諸問題の発見、仮説の構築と検証、主張の発信を自立的に遂行できる力を養成することを目標とする。「商学」を現代の産業社会全体を対象とする理論的実証的な研究という広い意味でとらえ、商業学、会計学、経営学、産業・経済の知識を体系的・有機的に学ぶほか、総合教育科目や外国語科目では、社会全体に対する豊かな問題関心と自分の考えを世界に向けて伝えるための情報発信力を養う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>商学部では、産業社会の抱える問題を自ら発見し、説得力ある解決策を導き、発信する能力を養うことにより、国際社会に貢献できる人材の育成を目指す。入学者の選抜もこの方針に沿って実施されており、社会に対する強い関心、論理的な思考能力、資料を読み解く力、英語をはじめとする基礎学力をとくに重視している。</p>
<p>学部等名 医学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>独立自尊の気風を養い、豊かな人間性と深い知性を有し、確固たる倫理観に基づく判断力を持ち、生涯にわたって医学の研鑽を続け、医学と医療をとおして人類の福祉に貢献する人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>日吉第1学年に設置している、外国語、人文・社会科学、基礎科学、医学基礎から構成される「基礎教育科目」43単位の取得と、第2～6学年に設置している、基礎・社会医学系科目、総合臨床・社会医学系科目、臨床医学系科目から構成される「専門教育科目」全科目に合格することを学位授与要件として学則で規定している。医学部では、豊かな人間性と深い知性を併せ持つ人材の育成、基礎医学と臨床医学を融合し、実学としての医学を高次で追究する教育・研究を目標としており、多岐にわたる学問分野の科目を必修として課すとともに、厳格な進級・卒業条件を設定している。卒業条件に、以下に定める7つの卒業コンピテンスを修得することを設定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> I. プロフェッショナリズム II. 医学知識 III. 診療の実践 IV. コミュニケーション V. 医療・福祉への貢献 VI. 科学的探究 VII. 国際医療人としての資質 <p>学位(学士(医学))は、7つの卒業コンピテンスを修得し、医療プロフェッショナリズム、自律的学習能力(生涯にわたり自ら課題を発見し、解決する能力)、基本的臨床能力を習得し、医学と医療をとおして人類の福祉に貢献する人材に授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>医学部では、学部教育目標「独立自尊の気風を養い、豊かな人間性と深い知性を有し、確固たる倫理観に基づく判断力をもち、生涯にわたって医学の研鑽を続け、医学と医療をとおして人類の福祉に貢献する人材を育成する。」の下、学部教育課程の編成においては、卒前・卒後の一貫医学教育を目指し、一般教養科目(生物学などの基礎理科学、英語など語学を含む)、基礎医学科目、臨床医学科目、臨床実習、臨床研修の有機的連携を強く意識している。その中に、モデル・コア・カリキュラムの内容を盛り込むとともに、科学的思考能力を涵養する本学独自の「自主学習」科目なども設定している。医療人としての資質を高める「プロフェッショナルイズム教育」の重視、生涯にわたり自ら課題を発見し、解決する「自律的学習能力」、診断学・臨床推論・臨床実習の強化による「基本的臨床能力」の確実な獲得を基本方針として、7つの卒業コンピテンスを修得するための学部カリキュラムを編成・実施している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>「基礎臨床一体型の医学・医療の実現」の理念の下、患者中心の医療を実践し、医学・医療に貢献してきた本学医学部は、次世代を先導し、豊かな人間性と深い知性を併せ持つ医学生を強く求める。そのために、創立者 福澤諭吉の「一身独立（自ら考え実践する）」の教えを理解し、世界に雄飛し、患者中心の医療を実現できる physician scientist（科学的思考力を備えた医師）となりうる医療人としての資質、目的意識、モチベーションを重視し、卒業コンピテンスを修得しうる者を選抜する。</p>
<p>学部等名 理工学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>理工学の研究教授を通して、豊かな創造力、確かな研究・開発能力、幅広い国際教養を修得した先導者を育成することを目的とする。</p> <p>機械工学科</p> <p>エンジニアに求められるセンスこれからの社会は、「メカニクス」と「情報」によって支えられると考えている。メカニクスとは、「質量を持つ物体およびエネルギー」を対象とする学問分野の総称で、実在するモノを人間社会に役立てることを追求する工学(エンジニアリング)の原点である。地球環境や人間社会と調和する科学技術の確立が、これからのエンジニアには求められている。時代を超えたベーシックサイエンスと実践的カリキュラムこれからの科学技術は、いままでとは異なった発想が必要である。そのため、将来のエンジニアとして活躍が期待されるみなさんにぜひ身につけてほしいことは、「メカニクスの基本」と「自由な発想」の融合である。機械工学科のカリキュラムでは、メカニクスの本質を学ぶ「力学の基礎」科目と、学生個々の夢とアイデアを実現する手段を学ぶ実技・実習科目を用意し、基礎力・探究心・創造性に溢れる人材の育成を目指している。</p> <p>電子工学科</p> <p>新たな技術革新を生み出す技術者、研究者の養成電子工学は、電気と光を情報処理・伝達の手段やエネルギー源として工学技術に応用する学問分野である。電子工学の発展は日進月歩で、かつ学際領域へも幅広く展開されているため、最先端であっても表層的な知識では、すぐに役に立たなくなってしまう。電子工学科では、新たな先端</p>

技術を切り拓く技術者、研究者を養成するためには、体系化された基礎学問をきちんと修得することが重要であるという考えに基づき、数学、電磁気学、量子力学、物性工学、電気・電子回路、情報工学、制御工学といった電子工学に関係する学問体系をきちんと身につけることを教育の目的としている。さらに、半導体デバイス、集積回路、フォトニクス、情報・通信などの電子工学とその応用分野の最先端研究に参画することで、技術のブレークスルーを主体的に進めることができる人材の育成を目指している。

応用化学科

人類のグローバルな課題に挑む化学の基礎から応用までを網羅する応用化学は、化学の基礎に立脚し、新しい物質をデザインし、創り出し、その物質の機能を制御することを目的とした学問分野である。このため、その研究領域は物質に関わるあらゆる分野、すなわち物理学、生物学、薬学や医学などにも広がっている。応用化学科では、環境・エネルギー・医療など人類の生活水準の向上において問題となるグローバルな課題を、物質を通して解決することで、未来の持続型社会の構築に貢献できる科学者・技術者を養成するように努めている。応用化学科では、高い専門性と広い視野を身に付け、これからの国際社会で活躍することのできる人材育成のため、化学の共通基礎科目と、その上に4つの研究分野（マテリアルデザイン、環境・分析・プロセス工学、オーガニックサイエンス、バイオサイエンス）を設けた特色あるカリキュラムを用意している。

物理情報工学科

物理情報工学科は、イノベーションにつながる応用物理を学ぶ学科であり、物理学と数学を基盤として、森羅万象に潜む物理現象やシステムに対する「真理の探究」を行うとともに、新しい「価値の創造」に果敢に挑戦している。本学科の使命は、(1)世界的に高く評価される研究、(2)国際社会のリーダーとなる学生の育成、の2つである。研究対象は、化学や生物学・医学的な領域も含めた「広い意味での物理」分野であり、先端工学の特徴である自動化・情報化・システム化を取り入れることによって、新しい情報技術・医療技術・環境エネルギー技術の創出を目指している。教育目標は、森羅万象が私たちに囁きかけている“声”に耳を傾け、語り掛けようとしている“表情”に目を向けられるような「物理情報」力の先導的育成であり、「自我作古」の勇気と使命感を持って「前人未踏の新しい分野」を開拓する気概のあるチャレンジ精神の醸成である。

管理工学科

科学技術を社会基盤に変えるためにある技術開発が人間や社会にとって真に必要なか？生産・普及が容易か？資金面で実現可能か？従来、科学者や技術者の思考の枠外にあった、こうした視点や発想が益々重要になっている。科学技術の成果を価値ある社会基盤へと昇華させるためには、情報、資金、ハードウェアといった異質な要素を関連づけるためのマネジメント技法を開発せねばならない。人間社会システムのデザインとマネジメント管理工学とは上述のように技術開発の是非を問い、実行に移すための理論と応用を旨とする学問であり、具体的な研究フィールドは、生産システム、インターフェイス設計、企業体、公的組織体から、交通システム、都市システム、世界経済や環境問題まで、多様な広がりを持つ。当学科は、科学技術全般から人間心理や企業経営、社会動向までを勘案できる総合的な思考力と、問題発見の能力を持った技術者と研究者の養成を目指す。

数理科学科

数学および統計科学など、数理科学の理論と研究手法を教授することで、抽象的・

普遍的に物事を見る力やデータから情報を的確に読み取る力を育み、変化する時代においても確実な判断を下し、幅広く社会に貢献する人材の育成を目的とする。

物理学科

物理学科では、全ての科学技術の基礎である物理学を学び、論理的に思考できる力と問題解決能力を身につけた、社会に貢献できる人材を育成することを教育研究の目的とする。物理学は、極微の世界から物質、生命、宇宙にいたる幅広いスケールの自然現象を調べ、背後に潜む普遍的な原理や基本法則の解明を使命とする精密科学であると同時に、科学技術が高度に発達した現代社会を根底から支える基盤科学である。従って、物理学の進歩は人類の更なる発展にとって非常に重要である。物理学科は、高度の専門知識を武器に様々な重要問題に柔軟かつ果敢に挑戦する人材がこれからの社会に必要であるという理念の下に、精密科学と基盤科学に根ざした知的探求を通じた教育研究を行い、科学技術分野を中心に広く社会に貢献できる優秀な人材を輩出することを目指す。

化学科

化学科は、自然科学として化学を追究し、分子・原子スケールの基礎的理解に基づいて、理論・物理化学から、無機化学、有機化学、生命化学まで「幅広くかつ質の高い基礎化学」の教育を通じて、将来にわたって理工学における新たな概念・ユニークな物質の創成を実現する国際レベルの科学者・研究開発技術者を育成することを目指す。

システムデザイン工学科

基盤技術を総合的に活用システムデザイン工学とは、工学システムとそれを取り巻く環境との調和性を実現する新しい学問学分野である。システムとは、宇宙、エネルギー環境、建築、情報、ロボット、バイオなどのハードウェアシステムとインフラストラクチャを意味し、デザインとは、システムを構成する要素の価値を高める最適システムの設計と制御のことである。システムデザイン工学では、個々に独自の発達を遂げてきた要素技術を統合し、技術と技術、技術と人間、技術と社会のより高い調和した状態をデザインすることを目指している。システムデザイン技術の体得システムデザイン工学では、設計の対象とそれを取り巻く環境を含めてシステムとしてとらえ、その問題点を解析・抽出し、新しいシステムの設計・提案を行う。カリキュラムは工学的アプローチの基本である力学的手法と制御情報的手法を柱とし、そこから基礎技術を融合する学問を教授する。

情報工学科

20世紀後半になって個人を時間的、場所的な束縛から解放する情報を扱う技術が発展した。さらに21世紀に入り、情報は人だけでなく、ロボットのような知的機械から、日常のありふれた物までをも対象とするようになった。情報を有機的に効率よく交換させるための通信の技術とその未来を正しく理解し、情報を把握して人間の役に立つように処理する画像・音声およびコンピュータ技術をしっかり身につけた、世界をリードする先端技術者を養成することが情報工学科の使命である。このような、コンピュータ科学、メディア工学、通信工学を「情報」の観点から融合的に扱う情報工学分野において、情報の発生、獲得、伝達、蓄積、処理、表示などにわたる学術の発展と人材の養成を通じて、社会に貢献することを目的とする。

生命情報学科

生命情報学科では、生命科学の新時代を見据えた人材育成を目指す。ヒトゲノムの全容が明らかになり、DNA暗号から作られるRNAやタンパク質、細胞表面の糖鎖

<p>などとの相互作用が作り出す様々な生命システムの解明は、新しい産業を興している。またヒトの神経系や認知機能に関する研究は、超高齢化社会に向けての重要な基盤技術を提供する。生命情報学科はこの新しい分野を自らの手で開拓し、幅広い知識と専門性を兼ね備えた、中核的役割を果たす人材を育成する。生命情報学科では、基礎学力として生物系、化学系、物理系、情報系の4つの分野を身に着けるために、今までにないカリキュラムを提供する。具体的には、物理・化学に基礎を置いた生体高分子の考え方、コンピュータを利用した生命機能・構造に関する膨大な情報の扱い方などを、実験・実習などで実際に手を動かしながら、「生命現象をシステムとして理解すること」を習得させる。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要) 理工学に関する基礎教育科目・専門基礎科目・学科専門科目などに加えて、外国語科目と総合教育科目を各学年に配置し、それらを学年制という枠組みの中で積上げ式に修得する。世界を舞台に活躍できる人材の育成を目的として、少人数セミナーや国際人材を育成するプログラムを充実させ、理工学の多岐にわたる学問分野の科目を必修として課している。また、1年間の卒業研究および卒業論文の執筆と発表を通じて、総合的なプロジェクト実行能力の修得を課している。さらに、在学中における海外大学での単位取得、海外インターンシップ等の在外経験の蓄積を大いに奨励し、気品と智徳を併せ持つ人材の育成を目的としている。すべての科目において厳格な評価を実施し、4年間で138単位以上の取得した者に学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要) 【1】「今ある最先端を学ぶのではなく、次の最先端を拓く基礎を学ぶ」をモットーに基礎重視の教育を行う。 ・上記の点を確固たるものとするために、厳選された必修科目を通して各自が基礎学力、基盤的知識をしっかりと身につけうる授業体系となっている。また、履修計画にゆとりを持たせ、各自の関心に応じた勉強ができるように、科目選択の自由度を高める工夫もなされている。 ・学部4年間を一貫した総合カリキュラムとし、さらに大学院進学率68%以上という現状を考慮し、修士課程を含めた6年間を通じ個性と能力を伸ばしうる、体系的なカリキュラムを組んでいる。 【2】 科学技術各分野の専門家にとどまらず、科学技術の置かれている現在の状況を的確に把握し、科学技術と人間社会とのより良い関係に着目できる、社会のリーダーを養成する。 ・生命、環境、社会、芸術、外国語など、様々な分野の科目を総合教育科目として設置し、理工学部教育の重要な柱のひとつに位置づけている。総合教育科目を学部4年間にわたって学べるようにすることで、視野の広い、柔軟な思考のできる科学技術者・研究者を育成する。 【3】 幅広い教養とグローバルな視野を持ち、世界を舞台に活躍できる逞しい人材を育成する。 ・外国語教育においては、いくつもの語種にわたり、コミュニケーション能力の向上を重視した、充実した教育プログラムが学部4年間にわたって準備されている。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>理工学部では、その教育・研究理念に沿って、未知の領域に挑戦する強い意志と、深い洞察力と豊かな創造力をもち、幅広く国際教養を身につけ、これからの日本と国際社会を先導すべき優れた人材の育成を目標としており、これに応えることができる、意欲ある学生諸君の入学を歓迎する。一般入試を筆頭に多様な入試(指定校推薦、留学生、帰国生、AO、一貫教育高校からの推薦入学)を実施し、様々な能力をもつ学生が互いに切磋琢磨し、創発効果を生み出せる教育研究環境を目指す。</p>

<p>学部等名 総合政策学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>総合政策学部は、多様な問題を解決し社会を先導する「問題解決のプロフェッショナル」を育成することを目標とし、「実践知」を教育理念としている。政治、法律、経済、社会、文化、テクノロジー、心と体などさまざまな領域を取り込みながら、問題を発見し、その解決に向けて学生と教員が一体となって取り組むことを重視する。高い問題意識に基づき、自ら考え、自らの手で未来を拓く力を磨く意欲ある人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>「実践知」を理念とする。慶應義塾の伝統である「実学」を継承し、社会に生起する様々な問題の解決を模索する。複雑な社会現象のなかから課題を発見し、その解決に向けて政策を立案する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>「実践知」を理念とし、また「実践」をメソッドとして身につけた「問題解決のプロフェッショナル」育成を目指す。学生が自ら能動的に問題を発見・分析・解決する能力をつけるために、研究会中心の教育課程を編成している。研究会では教員・大学院生・学部生による共同研究・実践が行われる。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>総合政策学部は「実践知」を理念とし、「問題発見・解決」に拘る学生を求める。問題を発見・分析し、解決の処方箋を作り実行するプロセスを主体的に体験し、社会で現実問題の解決に活躍する事を期待している。従って入学試験の重要な判定基準は、自主的な思考力、発想力、構想力、実行力の有無である。「SFCでこんな事に取り組み学びたい」という問題意識に基づいて、自らの手で未来を拓く力を磨く意欲ある学生を求める。</p>

<p>学部等名 環境情報学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf)</p>

<p>(概要)</p> <p>環境情報学部は、地球的規模で問題を発見しそれらの問題を解決することを目標とし、そのために、既存の学問に加え全く新しい学問に挑戦し続けることを研究教育方針としている。情報、生命、心身の健康、環境とエネルギー、デザイン、防災やメディアなどの新しい課題領域に対応するために、自らの力とともに、仲間との協働の力によって、先端の科学とテクノロジーを前提とした未来のグローバル社会を創造する先導者の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>「環境と情報の世紀」における未来社会の先導者の育成を目的とします。自ら問題を発見し課題を設定して、解決策を創出する実践知やプロジェクト遂行能力を体得させる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>受動的な講義中心のカリキュラムではなく、プロジェクトへの参加を主体とした能動的なカリキュラムを中心に教育課程を編成している。大学院生や教員と一体となってプロジェクトに取り組む中で、グローバル社会の創造者でありリーダーとしての必要な知識とスキルを体得させる。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>ひとつの学問分野にとらわれることなく幅広い視野を持ち、地球的規模で問題発見・解決できる創造者でありリーダーを目指そうとする学生を歓迎する。環境情報学部の理念や研究内容をよく理解した上で、「SFCでこんなことをやってみたい」という問題意識を持って入学してくれることを願っている。SFCの教育環境や先端プロジェクトなどあらゆるリソースを積極的に活用し、「自らの手で未来を拓く力を磨いてほしい」と期待している。</p>
<p>学部等名 看護医療学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本塾建学の精神に則り、生命・人間尊重の精神と豊かな人間性を備え、深い知性と倫理観に基づく判断力と実践力を持ち、生涯にわたって研鑽を続け、看護医療を通して人類の福祉に貢献する人材の育成を目的とする。この理念に基づく人材養成にあっては、次のような資質を涵養することを目標とする。(1)基本倫理としての生命・人間尊重の精神を身につけ、人間的に調和の取れた人格を備え、社会人として成長しうる素地を培う。(2)看護の知識・技術を駆使して新しい看護活動の場を創造し、保健・医療・福祉の発展に寄与する基礎能力を養う。(3)看護学の実践・研究および他の学問分野との相互交流により実学としての看護医療の発展を先導する人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>学則で定める卒業に必要な単位数を取得することが学士号授与の要件となる。また、卒業までに次の5つの力を有することを重視する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基盤となる人間力 基本倫理としての生命・人間尊重の精神を身につけ、人間的に調和の取れた人格を備え、社会人として成長しうる力を有する。また、幅広く社会への関心をもち、人々と出会い交流し相互作用ができる力を有する。 2. 看護医療の専門的力 看護の知識・技術を駆使して新しい看護活動の場を創造し、保健・医療・福祉を先導するための基礎的能力を有する。 3. 連携・協働する力 高度化された医療に対応し、さまざまな専門職のチームで互いの専門性を最大限に活かして、より優れた実践に繋げるために行動できる能力を有する。 4. 国際的に活動する力 国際的な感覚をもち、日本の位置や役割を捉えられる幅広い教養を身に付け、他国の医療専門職と協働できる柔軟な発想と行動ができる基礎的能力を有する。 5. 変化を起こす力 看護や医療および社会で起こっている、あるいは起こりうる事象への関心を深め、問題を発見する批判的能力、問題解決能力、変革力を有する。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>カリキュラムは4つの領域で構成し、基礎から実践力まで養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間・社会科学領域 ＜情報技術＞＜自然言語＞＜ヒューマンケアリング＞＜制度・社会＞の4つの分野から成り立ち、人間や社会を広く深く理解するための科目が配置されている。 2. 健康科学領域 ＜健康科学・病態学＞＜先端医療＞の2つの分野から成り立ち、心身の健康と健康破綻時の病態、およびその回復過程を理解するための科目が配置されている。 3. 看護科学領域 ＜基礎看護学＞＜母性看護学/助産学＞＜老年看護学＞＜小児看護学＞＜成人看護学＞＜精神看護学＞＜在宅看護学＞＜地域看護学＞＜グローバルヘルス＞の9つの分野から成り立っている。人間をどうとらえるか、人間が生きて生活する環境をどうとらえるか、人間の健康をどうとらえるか、看護そのものをどうとらえるかについて様々な視点からアプローチできるような科目が配置されている。 4. 統合領域 ＜看護・医療統合＞分野から成り、「人間・社会科学領域」「健康科学領域」での学びを基盤に「看護科学領域」の9つの分野全体を見渡し、医療とは何か、看護とは何かを改めて問い直すような科目が配置されている。
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>看護医療学部は、「人の健康と生命、看護への関心をもち、他者の苦痛や悩みを理解しようとする人」、「人を尊重し自分とは異なる立場や文化、価値観を持つ人々とコミュニケーションでき、関係を築いていこうとする人」、「ものごとを多角的にとらえ、そこにある問題に気づき、解決の方向性と対策を考え出し、それを実行する意志と行動力がある人」、「自らやると決めたことをやり遂げようとし、失敗の経験か</p>

ら学び、自身を成長させようとする人」、「自分の行いが人々や社会に役立つことを望み、人々や社会のよりよいあり方を追求しようとする人」を求めている。学部開設の目的である、人々と社会のため看護医療の先導者となる意欲ある人材を、一般入試、AO入試、第2学年学士編入学試験という多様な方法により選抜している。

学部等名 薬学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf)</p>
<p>(概要) 本塾建学の精神に則り、薬学の理論と応用とを研究教授し、医療・創薬に関わる分野で求められる学識と能力を培うことを目的とする。</p> <p>薬学科 薬学科は、科学の基盤をもち、医療人としての自覚のもと、高い臨床能力を発揮できる、人に優しい薬剤師の育成を目的とする。</p> <p>薬科学科 薬科学科は、創薬、臨床開発、環境・生命科学などの幅広い分野における科学者の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>薬学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年以上在籍し、所定の単位を修得 ・医療人としての広い教養を身につけ、高い倫理観、使命感を有していること ・医薬品適正使用の基盤となる科学を修得していること ・医療人として必要なコミュニケーション・プレゼンテーション能力を修得していること ・医薬品の専門家としてチーム医療に貢献できる能力を修得していること ・地域保健医療に貢献できる能力を修得していること ・医療薬学領域における問題発見・解決能力を修得していること ・生涯を通じて国内外の最先端の医療知識を取り入れ活用する能力と態度を有していること <p>薬科学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年以上在籍し、所定の単位を修得 ・生命科学や創薬研究に関わる上で必要な高い倫理観、使命感を有していること ・生命科学や創薬研究に必要な基礎的知識と技術を修得していること ・科学に立脚した問題発見・解決能力を修得していること ・科学者として国内外で活躍するために必要なコミュニケーション・プレゼンテーション能力を修得していること ・最先端の情報を収集し活用する能力と態度を有していること
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>薬学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬学教育モデル・コアカリキュラムを基本 ・教養教育と倫理教育による高い倫理観と患者への思いやり、チーム医療における協

<p>調性と責任感の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語教育等を通じた医療分野での国際性の涵養 ・医薬品や化学物質と生命現象を理解するための基礎的な科学力の習得 ・適正な薬物療法を推進するための知識および実践的技能の習得 ・健康増進や公衆衛生の向上のための知識の習得 ・卒業研究を通じた問題発見・解決能力およびプレゼンテーション能力の醸成 <p>薬科学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命科学を中心とした自然科学の知識・実験技術の習得 ・薬学に特徴的な科目による医薬品や医療の知識の習得 ・生命科学や創薬研究に関わる人材に相応しい倫理観の醸成 ・卒業研究を通じた問題発見・解決能力およびプレゼンテーション能力の醸成 ・外国語教育等を通じた科学者としての国際性の涵養
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>福澤諭吉の建学の精神は、独立自尊の人格を育成し、気品の泉源、智徳の模範となり全社会の先導者たる人を養成することである。薬学部では、建学の精神に則り、医療・創薬に関わる分野で求められる学識と能力を培うことを目的に薬学の理論と応用とを研究教授する。その目的を理解し、化学、数学、語学（英語）の基礎力と薬学を学ぶ強い意志を持つ学生の入学を求める。</p> <p>薬学科（6年制）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療薬学を学び薬剤師の資格を持って社会に貢献する意欲のある学生 <p>薬科学科（4年制）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然科学に興味があり、薬の創製等を通して人類へ貢献する意欲のある学生

(通信教育課程)

<p>学部等名 文学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：通信教育課程webサイトにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1類：哲学、倫理学、美学美術史学、社会学、心理学、教育学、人間科学の各専攻を中心として、広義の哲学に含まれる専門研究を行う。実験を基盤として自然科学の性格をも帯びる心理学から、人間として生きることの意義を省察する哲学や倫理学、そして個人の美的感受性の分析から集団のコミュニケーション研究まで、多様な分野がある。 ・第2類：日本史学、東洋史学、西洋史学、民族考古学の各専攻を中心として、歴史に関する専門研究を行う。それぞれの専門領域の枠をこえて、キリシタン史のように東西にまたがる研究や、また西洋と東洋の接点であるオリエントの歴史、ポリネシアや東南アジアにも及ぶ民俗学と考古学など、興味深い研究分野もここに含まれる。 ・第3類：国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学の各専攻を中心として、文学と言語研究を主要な対象とした研究を行う。わが国の諸大学の文学部の中でも特筆に価するレパートリーの広さと伝統を持ち、第1、2類の諸専攻との連携の上に立って、専門かつ総合的な研究を行う。言うまでもなく、文学・言語を研究すれば、例えば歴史的問題、民族的問題、人間の心の動きについての問題を併せて考察せざるを得ない。 <p>卒業の認定に関する方針</p>

<p>(公表方法：補助教材『塾生ガイド』、ホームページにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html)</p>
<p>(概要) 総合教養科目、語学、ならびに専門分野に関する深い学識を備えた者に学位を授与する。そのためには、厳格な成績評価のもとで所定の単位を修得し、かつ、卒業論文を作成し、卒業試験に合格することが必要となる。授与する学位は、学士（哲学）、学士（美学）、学士（史学）、学士（文学）、学士（図書館・情報学）、学士（人間関係学）。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (補助教材『塾生ガイド』、ホームページにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html)</p>
<p>(概要) 文学部は総合的な教養教育と幅広い興味を育てる専門教育を展開しているが、通学課程とは異なり、他の類の科目も幅広く履修する必要がある。どの類に所属していても開講科目一覧に挙げる科目の履修は可能。 各類ではそれぞれ学問の伝統に基づきながらも社会的ニーズに応えた多彩な科目が設置され、学生の意欲的な取り組みを指導する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html)</p>
<p>(概要) 通学課程の各学部のアドミッションポリシーにおおむね準じていますが、通信教育課程としてはとくにつぎのような学生を求めている。 さまざまな事情で、通学課程に通うことが困難であった人、あるいは現に困難な人。職業生活を終えたが、その旺盛な向学心をさらに満たしたいと考えている人。職業生活の途上で、自らの学歴を高度化することによって、職業的なステップアップを考えている人。選考は書類選考によるが、当該学部に入学するための一定の読書歴と、今後の勉学計画・研究計画について、明確なプランを持っていることが求められる。入学後、円滑に勉学を進めていくための、基本的な学力、とくにアカデミック・ライティングのために必要な日本語能力を求めます。文学部は、哲学を主とする第1類、史学を主とする第2類、文学を主とする第3類の3つの類に分かれており、このいずれかの類を決めて出願の手続きをとらなければならない。</p>
<p>学部等名 経済学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：ホームページにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html)</p>
<p>(概要) 通信教育課程の経済学部は、経済学系と商学系の大きく二分されるカリキュラムを用意している。 経済学と商学はたがいに隣接する社会科学の分野で、どちらも現代社会における広い意味での経済現象を考察の対象としている。しかし経済学は、地域や国家や世界といったさまざまな経済の担い手が集まった複合体の特質の解明に、より大きな関心がある。他方で商学や経営学は、国家の観点からではなく、あくまで一企業の観点から研究を行う学問である。ただしこれらは力点の置き方の違いであって、経済学的な考察のためにはしばしば商学的なより現実的知識が必要となり、商学的なより実践的学の基礎としては経済学的な思考が不可欠である。経済学部は、経済学の基礎コースから</p>

<p>はじまって、経済理論・計量経済、経済史・学史・思想史、経済政策、日本経済・国際経済、商業学・経営学・会計学、法律学の各コースを提供している。学生は学則の定めるところに従って、これらのコースから自分の関心に最も合致した科目を履修することができる。ただし経済学の基礎コースは、一人一人がいかなる関心を持つにせよ、経済学部学生として不可欠である。その上で、昨今の経済学の状況に各々異なった成立事情と思考方法を持つ複数の流れがあることを十分認識しておく必要があり、これらの諸潮流について正しい知識を体系的に持つことによって、経済現象について確固たる判断を下せるように努力しなければならない。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：補助教材『塾生ガイド』、ホームページにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html)</p>
<p>(概要) 総合教育科目、語学ならびに経済学全般に関する広い知識・理解力と経済学の特定専門分野に関する深い考察力を兼ね備えた者に学位を授与する。経済学を一つの軸とする教養を備え、変化する社会を適切に認識し、日本社会をリードすると同時に世界で活躍できる能力を証するものとして学位を授与することを方針としている。授与する学位は、学士（経済学）。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：補助教材『塾生ガイド』、ホームページで公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html)</p>
<p>(概要) 通学課程では経済学部と商学部がそれぞれ独立していますが、通信教育課程では経済学部の中で商学部系の科目が履修できるようになっている。専門教育科目は必修科目と選択科目に分かれ、広い分野にわたって科目を履修することになる。経済学部設置されている各コースは、いずれも経済現象の理論的分析と実証的分析への基本的視点を提供するものとなっている。さらに経済現象を歴史的に捉えるために必要な経済史関係の科目、経済学の過去を振り返る学史・思想史関係の科目、人口・環境・都市と地域など社会関連の学際的な科目も多く配置している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html)</p>
<p>(概要) 通学課程の各学部のアドミッションポリシーにおおむね準じていますが、通信教育課程としてはとくにつぎのような学生を求めている。 さまざまな事情で、通学課程に通うことが困難であった人、あるいは現に困難な人。職業生活を終えたが、その旺盛な向学心をさらに満たしたいと考えている人。職業生活の途上で、自らの学歴を高度化することによって、職業的なステップアップを考えている人。選考は書類選考によりますが、当該学部に入学するための一定の読書歴と、今後の勉学計画・研究計画について、明確なプランを持っていることが求められます。入学後、円滑に勉学を進めていくための、基本的な学力、とくにアカデミック・ライティングのために必要な日本語能力を求める。</p>
<p>学部等名 法学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：ホームページにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>法学部は、法律学を主とする甲類（法律学科）と政治学を主とする乙類（政治学科）の2つに分かれている。それゆえ専門教育科目も甲類と乙類とは異なっている。法律学を学ぶ甲類と政治学を学ぶ乙類では対象とする学問の性質が同じではないが、法学部では社会に対する総合的洞察力を備えた自由で独立の気概にあふれた人間の育成を目指している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 甲類（法律学科）ひとりひとりの学生の個性と目的志向にあわせ、合理的な学習・研究を通じて、高い見識と広い視野とに支えられたリーガル・マインド（法的なもの見方）を涵養することをねらいとしている。必修科目は憲法、民法総論、刑法総論の3科目に限られている。まず、必修科目で基本原理を学ぶことから始めて、商法、訴訟法、行政法、労働法、国際法、外国法、法制史といった法律の各分野に学習・研究を広げていく、という制度がとられている。同時に、狭い専門にかたよらないよう隣接の諸分野、例えば政治学、政治史、国際政治論、社会学、経済学、統計学などに対する学習の機会が得られるような配慮も充分つくされている。 ・ 乙類（政治学科）：広い視野と国際感覚を身につけ、自由な思考のできる、豊かな構想力と判断力を持った人間の育成を教育の基本方針としている。そのために、ひとりひとりの学生の問題意識と研究関心に従った自由な学習・研究ができるような制度がとられている。まず必修科目は政治学と憲法の2科目にかぎられている。また、履修選択の幅は、単に政治学の諸分野にとどまらず、広く社会学、法律学、経済学など社会科学の基礎となる諸学科目が用意されている。同時に、政治学や社会学を構成する五つの分野「政治思想論」「政治・社会論」「日本政治論」「地域研究論」「国際政治論」から、専門学科目が配置されている。幅広く知識を得ようとする学生にも、また特定の地域や政策を学ぼうとする学生にも、充分応えることのできるカリキュラムとなっている。
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：補助教材『塾生ガイド』、ホームページにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>法学部では所定の年限在学し、学則第11条に定める総合教育科目の所定の単位を修得し、かつ第74条の定める甲類（法律学を主とするもの）の科目ないしは乙類（政治学を主とするもの）のなかから所定の単位を修得した者に、学士の学位を与える。自由科目は含まれない。個々の科目の単位認定にあたっては、厳格な成績評価を行い、各々の科目に関する基礎的知識や技法が着実に修得されているか否かに留意する。授与する学位は、学士（法学）。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(補助教材『塾生ガイド』、ホームページにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>法学部は、甲類（法律学科）、乙類（政治学科）の2つの類からなり、学生はそれぞれ所属する類の法律学科目、政治学科目を履修する。法律学科では法律家を育てるだけでなく、社会現象を法的にとらえる能力つまり、リーガルマインドを育てることが目標である。政治学科においては、個別の行為や現象を全体との関連で適切に位置づける能力、つまり組織の指導者に要求されるゼネラリストとしての資質の涵養を目標としている。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：ホームページにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html)</p>

(概要)
 通学課程の各学部のアドミッションポリシーにおおむね準じているが、通信教育課程としてはとくにつぎのような学生を求めている。
 さまざまな事情で、通学課程に通うことが困難であった人、あるいは現に困難な人。職業生活を終えたが、その旺盛な向学心をさらに満たしたいと考えている人。職業生活の途上で、自らの学歴を高度化することによって、職業的なステップアップを考えている人。
 選考は書類選考によりますが、当該学部に入学するための一定の読書歴と、今後の勉学計画・研究計画について、明確なプランを持っていることが求められる。入学後、円滑に勉学を進めていくための、基本的な学力、とくにアカデミック・ライティングのために必要な日本語能力が求められる。
 法学部は、法律学を主とする甲類と政治学を主とする乙類に分かれている。出願時に類を決めなければならないので、自分の将来と考えあわせて慎重に選び、途中で類を変えることなく最後までやり遂げられることが期待される。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：慶應義塾 web「情報公開」ページにて公表している。
<https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
文学部	—	105人	31人	1人	14人	0人	151人
経済学部	—	95人	32人	10人	15人	0人	152人
法学部	—	79人	19人	18人	4人	0人	120人
商学部	—	78人	28人	7人	3人	0人	116人
医学部	—	71人	78人	209人	388人	156人	902人
理工学部	—	138人	83人	38人	33人	0人	292人
総合政策学部	—	32人	7人	15人	0人	0人	54人
環境情報学部	—	33人	17人	8人	0人	0人	58人
看護医療学部	—	17人	9人	7人	15人	0人	48人
薬学部	—	21人	19人	12人	23人	0人	75人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		2,379人				2,379人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：慶應義塾web「研究者情報・業績」により公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/research/researchers/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	800人	805人	100.6%	3,200人	3,550人	111.0%	人	人
経済学部	1,200人	1,144人	95.3%	4,800人	5,176人	107.8%	人	人
法学部	1,200人	1,236人	103.0%	4,800人	5,269人	109.8%	人	人
商学部	1,000人	1,010人	101.0%	4,000人	4,430人	110.8%	人	人
医学部	113人	114人	100.9%	677人	682人	100.7%	人	人
理工学部	932人	965人	103.5%	3,728人	3,942人	105.7%	人	人
総合政策学部	425人	412人	96.9%	1,700人	1,990人	117.0%	人	人
環境情報学部	425人	392人	92.2%	1,700人	1,997人	117.4%	人	人
看護医療学部	100人	106人	106.0%	415人	430人	103.6%	5人	2人
薬学部薬学科	150人	151人	100.7%	900人	931人	103.4%	人	人
薬学部薬科学科	60人	61人	101.7%	240人	246人	102.5%	人	人
合計	6,405人	6,396人	99.9%	26,160人	28,643人	109.5%	5人	2人
(備考)								
・2019年5月1日現在の学生数								
・入学定員は秋学期入学用の定員を含む								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)		その他
			就職者数	その他	
文学部	765人 (100%)	71人 (9.3%)	609人 (79.6%)	85人 (11.1%)	
経済学部	1167人 (100%)	34人 (2.9%)	1031人 (88.3%)	102人 (8.7%)	
法学部	1,282人 (100%)	120人 (9.4%)	1,049人 (81.8%)	113人 (8.8%)	
商学部	952人 (100%)	16人 (1.7%)	837人 (87.9%)	99人 (10.4%)	
医学部	112人 (100%)	3人 (2.7%)	0人 (0.0%)	109人 (97.3%)	
理工学部	908人 (100%)	655人 (72.1%)	221人 (24.3%)	32人 (3.5%)	
総合政策学部	442人 (100%)	33人 (7.5%)	367人 (83.0%)	42人 (9.5%)	
環境情報学部	448人 (100%)	54人 (12.1%)	331人 (73.9%)	63人 (14.1%)	
看護医療学部	109人 (100%)	4人 (3.7%)	105人 (96.3%)	0人 (0.0%)	
薬学部 薬学科	155人 (100%)	13人 (8.4%)	134人 (86.5%)	8人 (5.2%)	
薬学部 薬科学科	55人 (100%)	50人 (90.9%)	3人 (5.5%)	2人 (3.6%)	
合計	6395人 (100%)	1053人 (16.5%)	4687人 (73.3%)	655人 (10.2%)	

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)
(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>通学課程：</p> <ul style="list-style-type: none"> 例年10月頃に次年度の授業担当者が決定するので、11月にシラバスの作成を依頼。翌年1月から3月にかけて編集し、授業科目の内容・目的・方法・授業計画ならびに成績評価方法などについて『講義要綱・シラバス』として3月中旬を目途に公表している。 閲覧方法 <ul style="list-style-type: none"> ① 在学生はWebの塾生サイトでIDとパスワードでログインし閲覧する。「塾生の皆様へ」→「履修案内・講義要綱・時間割」 http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/rishu/index.html ② 一般向けには、表示項目の一部を除き公表している。 https://gslbs.adst.keio.ac.jp/ <p>通信教育課程：</p> <ul style="list-style-type: none"> 例年11月に次年度の授業担当者が決定するので、12月にシラバスの作成を依頼。翌年1月から3月にかけて編集し、『スクーリング案内／講義要綱』、『テキスト科目履修要領』として4月に公表している。 閲覧方法 <ul style="list-style-type: none"> ① 学生用ポータルサイト (kcc-channel、 https://kcc-channel.keio.ac.jp:10443/up/faces/login/Com00501A.jsp) IDとパスワードでログインし閲覧する。 ② 希望者には製本印刷したものを配布している。 ③ ホームページで外部の方も閲覧可能。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/syllabus.html
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>通学課程：</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業科目の評価は試験やレポートの提出を課し、成績は、S・A・B・C・Dの5段階評価を持って示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した科目には所定の単位を与えている。また、学位認定については、履修科目で得た単位数に卒業論文の審査などにより取得した単位を加え、各学部学則に定める卒業必要単位数の充足をもって、各学部教授会が認定している。 <p>通信教育課程：</p> <ul style="list-style-type: none"> 文学部：総合教養科目、語学ならびに専門分野に関する深い学識を備えた者に学位を授与する。学生は厳格な成績評価のもとで所定の単位を修得し卒業論文を作成し卒業試験に合格することが必要。 経済学部：総合教育科目、語学ならびに経済学全般に関する広い知識・理解力と経済学の特設専門分野に関する深い考察力を兼ね備えた者に学位を授与する。経済学を一つの軸とする教養を備え、変化する社会を適切に認識し、日本社会をリードすると同時に世界で活躍できる能力を証するものとして学位を授与する方針。 法学部：法学部では所定の年限在学し、学則第11条に定める総合教育科目の所定の単位を修得し、かつ第74条の定める甲類（法律学を主とするもの）の科目ないしは乙類（政治学を主とするもの）のなかから所定の単位を修得した者に学士の学位を授与する。自由科目は含まれない。個々の科目の単位認定は厳格な成績評価を行い、各々の科目に関する基礎的知識や技法が着実に修得されているか否かに留意するものとする。 				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	人文社会学科	128単位	有・無	単位
文学部 (通信教育課程)		124単位	有・無	単位
経済学部	経済学科	126単位	有・無	単位
経済学部 (通信教育課程)		124単位	有・無	単位
法学部	法律学科	136単位	有・無	単位
	政治学科	136単位	有・無	単位
法学部 (通信教育課程)		124単位	有・無	単位
商学部	商学科	128単位	有・無	単位
医学部	医学科	234単位	有・無	単位
理工学部	機械工学科	138単位	有・無	単位
	電子工学科	138単位	有・無	単位
	応用化学科	138単位	有・無	単位
	物理情報工学科	138単位	有・無	単位
	管理工学科	138単位	有・無	単位
	数理科学科	138単位	有・無	単位
	物理学科	138単位	有・無	単位
	化学科	138単位	有・無	単位
	システムデザイン 工学科	138単位	有・無	単位

	情報工学科	138単位	有・無	単位
	生命情報学科	138単位	有・無	単位
総合政策学部	総合政策学科	124単位	有・無	単位
環境情報学部	環境情報学科	124単位	有・無	単位
看護医療学部	看護学科	124単位	有・無	単位
薬学部	薬学科	188単位	有・無	単位
	薬科学科	126単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：慶應義塾 web「キャンパス」ページにて公表している。
<https://www.keio.ac.jp/ja/about/campus/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

(通学課程) <https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/fees/>

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部		870,000円	200,000円	250,000円	<ul style="list-style-type: none"> ・左記金額は初年度納付額。入学2年目以降は入学金を除く額を納付。 ・左記以外に、大学が代理徴収する学生健康保険互助組合費、研究会費等（3,250円～15,850円/年）を併せて納付。
経済学部		870,000円	200,000円	250,000円	
法学部		870,000円	200,000円	250,000円	
商学部		870,000円	200,000円	250,000円	
医学部		3,040,000円	200,000円	600,000円	
理工学部		1,260,000円	200,000円	380,000円	
総合政策学部		1,030,000円	200,000円	330,000円	
環境情報学部		1,030,000円	200,000円	330,000円	
看護医療学部		1,030,000円	200,000円	590,000円	
薬学部	薬学科	1,680,000円	200,000円	540,000円	
	薬科学科	1,410,000円	200,000円	540,000円	

(通信教育課程) <https://www.tsushin.keio.ac.jp/admissions/tuition.html>

<文学部・経済学部・法学部共通>

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部		75,000円～	20,000円	40,000円	<ul style="list-style-type: none"> ・左記金額は初年度納付額。入学2年目は入学金とその他に含まれる選考料を除く額を納付。

経済学部		75,000 円～	20,000 円	40,000 円	・授業料部分は、教育費 70,000 円とスクーリング受講料 5,000 円～（履修単位数により異なる）で表記。 ・左記以外に、卒業論文指導関連で在籍期間中に 30,000 円を納付。
法学部		75,000 円～	20,000 円	40,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学習に係る支援については、各学部・研究科の学習指導担当教員および学部担当職員が責任をもってこれにあたり、直接学生の相談に乗り、アドバイスを与え、留年者や休・退学者・成績不振者の状況把握とそれに基づく対応を行っている。</p> <p>経済的な支援については、大学独自の奨学金を 80 種類以上設置し、学生からの多様な経済的ニーズに応えている。大学独自の奨学金は全て返済の必要のない給付奨学金であり、卒業後の経済的負担を心配することなく勉学に励むことを可能にしている。また、学生寮の充実を図り地方や海外の学生が入学し易い環境を整えている。その中でも国際学生寮では留学生との交流を通じて高い国際性を身につけることも期待できる。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>個別相談、ガイダンス、各種資料提供により支援している。</p> <p>個別相談については、事前予約制または予約不要の個別相談をおこなっている。希望する学生に対し、進路に関する相談、採用面接の練習、採用選考のための履歴書等書類添削の機会を提供している。</p> <p>ガイダンスについては、主に民間・公務員への就職希望者を対象として、一般的な内容からテーマ別や学生所属別など幅広い内容のガイダンスを、全キャンパス合わせて年間130回程度行っている。</p> <p>各種資料提供については、大学宛に届いた就職・進路・資格試験等に関わる情報を提供している。また、OB・OG 訪問のための卒業生検索システムや、過去の卒業生による就職活動体験記を閲覧できるシステムを整えている。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>心身の健康に対しては、各地区に、医師・保健師が常在する保健管理センター、臨床心理士の資格を有するカウンセラーが常在する相談窓口（日吉・三田・矢上・芝共立では「学生相談室」、信濃町では「ストレス・マネジメント室」、湘南藤沢では「心身ウェルネスセンター」）を設置している。学生相談室では、学生生活上の諸問題に関する相談に応じ、カウンセリングを通して健全な心身の発達と学生生活の向上を図ることを目的に、個別相談およびグループワーク等による支援を行っている。</p> <p>生活支援や生活指導に関しては、「学生教育研究災害傷害保険」に加入し、正課・課外活動中の事故等へ対応するとともに、飲酒事故・薬物使用・各種トラブル防止のため、リーフレット配布、ガイダンス、e-learning 科目等により啓発を行っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：慶應義塾 web「教育」「研究」ページにて公表している。</p> <p>「教育」https://www.keio.ac.jp/ja/academics/</p> <p>「研究」https://www.keio.ac.jp/ja/research/</p>
--